

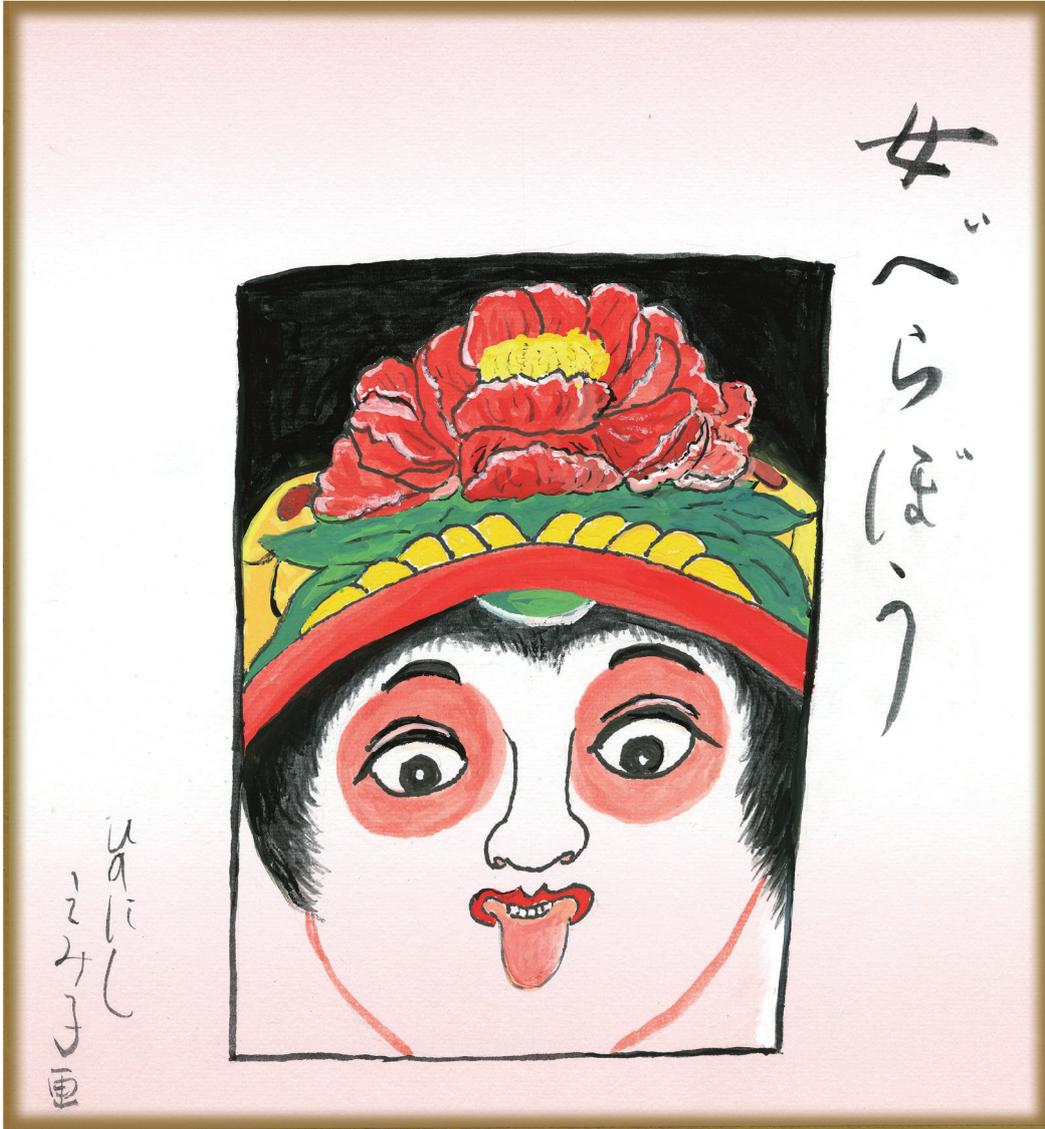
創立128年
第15号

あきた
札幌秋田県人会会報

発行人 札幌秋田県人会
齊藤 和雄
住所 札幌市中央区大通
西1丁目
桂和大通ビル50
地下1F
電話 011-211-4431
FAX 011-211-4432



能代 凧



日野西 恵美子

ぐるぐる大きな目ン玉をむき、まつ赤な舌でアツカンベエをしている、何ともとぼけた奇妙な「女べらぼう」の絵を模写してみました。とても難しく迫力がでませんでした。

ユニークな男・女の「べらぼう」凧の絵柄の由来については、諸説あるようです。私はこれだけの大胆、奇抜な御面相がこの地に誕生するからには、余程の含みという魂胆があつての事と推察するのですが、一説に依れば、日頃支配階級に對しうつつ積する思いの庶民が、うらみ、つらみをべらぼう凧に託し、上空からアツカンベエと見下していたのだとか。

百年昔、無数の凧が飛び交い、ために太陽の光も暗い程だったという能代の冬空に、乱舞する赤い舌たちの痛烈なパンチ。

この能代の先人の方々の不屈の、しゃれっ気を誇りとも、希望とも思い、又「べらぼう」凧よ永遠なれ」と願わずにいられません。
(能代山本会)

県知事表彰

おめでとう

会長表彰

知事表彰 (3名)

憲 次 (大館・北秋会)
 野 信 (男鹿・南秋会)
 謙 田 強 (男鹿・南秋会)

会長表彰 (2名)

土 佐 スミ子 (大館・北秋会)
 鈴 木 貞 夫 (能代・山本会)
 (敬称略)

札幌秋田県人会総会

平成二十九年、一二九回
 札幌秋田県人会総会は、五
 月二十日、札幌市のホテル
 「マイステーズ」で開かれ
 る。総会には先の秋田県知
 事選で三選を果たした佐竹
 敬久知事をはじめ、道内の
 秋田県人会会長らが出席す
 る。

来賓あいさつで、佐竹知
 事は郷里秋田の再生にもつ
 とも力を入れていく決意を
 示すものとみられる。
 永い間、県人会活動に尽
 力した会員に与えられる県
 知事表彰は三氏に、また県
 人会会長表彰は二氏に贈ら
 れる。被表彰者は上記の通

り。
 表彰を受ける5人は県人
 会活動で永く役員を務め、
 いずれも指導的な存在とし
 て貢献してきた。
 特に、県知事表彰の鎌田、
 小野両氏は、「表彰はとて
 もおこがましくて」と喜
 びも控えめだが、これを機
 に「みんなが参加でき、楽
 しめる県人会にしたい」と
 気持ちを新たにしている。

総会に寄せて

四月に入っても吹雪に見舞われるなど、例年になく気象変動でこれも地球温暖化の影響によるものなのかと危惧される新年度の始まりで驚いたしだいでしたが、ようやく春らしい季節が訪れる兆しが見え始め、ほっとする今日この頃ですが、会員の皆様におかれましては、ご壮健でご活躍のことと心からお慶び申し上げます。

さて、郷里秋田におかれましては、知事選挙が行われ、佐竹知事が見事圧勝で三期目の当選を果たされま

しても佐竹知事に衷心よりエールを送り、今回の知事選の圧勝を心からお祝い申し上げる次第です。そして全国に在住している県人会員諸賢の力を結集して取り組みながら進んでこられた

する運びとなりました。昨年は美味しく楽しいいきりたんぼ会、さくらんぼ狩りゴルフ大会等々多くの催しを企画し、実行することが出来ました。これも一重に皆様のご指導とご協力によ

り申し上げます。

ふるさと再生 佐竹知事に協力

札幌秋田県人会会長 齋藤 和雄

した。言うまでもなく佐竹知事は、私利私欲を捨て、郷里秋田の産業振興などに貢献し、元気で活性化した郷里秋田を取り戻そうと一生懸命力を注ぎ頑張っておられます。我々県人会と

佐竹知事を、引き続き一丸となって応援し、素晴らしい郷里秋田の創成の実現に協力し、貢献しようではありませんか。

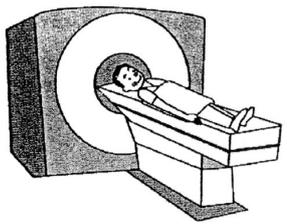
さて、札幌秋田県人会は百二十八回目の総会を開催

るものであり、衷心よりお礼を申し上げます。北東北三県の合同親睦会は盛会裏に終了し、青森県、岩手県の各総会にも出席させて頂き、函館、釧路、苫小牧の秋田県人会にも参加いたし

永く県人会の発展に尽くす

からだと心の健康を約束する 医療法人社団 北海道健診センタークリニック

健康診断・診療	日帰り人間ドック・一般及び職場・職場健康診断・特殊健康診断・一般診療
ご予約	文書・電話等で事前予約をお願い致します。完全予約制で、待ち時間が少なく受診可能です。
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ①胃部検査にバリウムの他、血液で胃粘膜の状態を診断できるペプシノーゲン法にピロリ菌の検査を加えての胃の健康度を判定 ②医師による総合判定を記載し、迅速に健診結果を発送 ③人間ドックでは男性は前立腺癌、女性は卵巣癌の他、胆・肝・脾などの癌の腫瘍マーカーを採用 ④一般診療科目：内科（呼吸器、循環器、消化器）、心療内科、アレルギー科 ⑤便利な交通アクセス（JR苗穂駅隣、駐車場完備）
診療時間	月曜日～金曜日（祝祭日を除く）午前8：30～12：30、午後13：30～17：30



〒060-0033 札幌市中央区北3条東13丁目99-6 (JR苗穂駅隣・駐車場完備)
 TEL：(011) 200-1558 FAX：(011) 200-1559
 ホームページ：http://www.hokkaido-kenshin-center.com
 メール：h-kenshin-center@zc.wakwak.com

理事長・院長 医学博士 齋藤 和雄
北大名誉教授 (本荘市出身)

ホームページに見た故郷の「今」

仙北会 金澤 芳太郎会長の提起

県人会活動の根源は、故郷に対する想いの共有であると思う。

また同町出身の東京大学元総長佐々木毅記念館が開館された。

八人 平二十八・十）老松博行市長はこの四月の選挙で当選。前市長栗林氏から引継いだ。氏も百二十五周年に出席された方である。北大出身で道内にも知人が多い。

「大きなせなかに夢をのせ未来に飛ばたく元気なまち」をスローガンに県一の

八人 平二十七・二）市長は門脇光浩氏

「角館産」が加えられた。

「連合会長に就任して一言」北海道連合会長の就任して一言

平成十七年市町村合併から十二年、今の「仙北」を各ホームページからその一端をのぞいてみた。各市町ともよく工夫され日々イキイキとした「今」が手にとるように良く解る。

広報誌「美郷」(月刊)は千畑時代から非常に充実しておりコラム「風」は町長の考えが良く表われている。交流都市の中にラベンダーの中富良野町がある。在道の私達には親しみが

「米どころ」としてまた県の中央として商工業も安定し財政は健全である。大曲といえば「花火」で今年も四月二十五〜二十九日に国際大会が行なわれ国内外から大勢の観光客が訪れた。観光用のロゴデザインも一新。また刈野・大曲の大綱引き(二月十日)も一大イベントである。今年も第一回全国五百才野球大会が大曲・神宮寺で開催される。(七月十五日)

「市民が主役のまち・ひと・しごと創生法」のもと総合計画により今後四年間の四つの決意(看板産業の育成・チームワーク・機能合体挑戦)を挙げ市民一体となつて頑張っている。特に歴史文化プラス世界先端技術の移入を戦略として人口減対策としているが定住支援も今一歩といったところ。眼に見える成果として三月市立新病院が完成開院した。観光は角館の桜が有名であるが春の刺巻温泉の水ばし祭・西明寺のかたくり群生も見事で、角館祭りのやま行事、田沢湖のクニマスにもっと注目したい。「広報せんぼく」(月二回)は巻頭に市長の「みんな元気になれ日記」があり現在重点としている考えが記されている。ふるさと納税の返礼品は名産品が多数あり本年「あきた小町」(角館産)が加えられた。

先日「西木村の栗」を使った焼酒を発見・入手した。以上基本的事項を述べたが、ライブ映像(両市議会、角館武家数軒の桜等)もあり日々更新される諸事項は有為且つ楽しい情報が得られる。

会員として出来る事項は

責任の重さ・人の大切さを、改めて大事に思いました。

ふるさと仙北に関心持とう

来道の節 語る夕べでまちの未来を

町長は札幌県人会百二十五周年にご出席された松田知己氏である。人口減という県共通の問題を抱えながら農業・土産を主体とし財政は健全である。

「ふんなど」とずつもつとい町へ」をスローガンに総合計画で豊かさ・快適・交流・活力の四つの行動を実施中。

「ふるさと納税」は昨年六百万円・百三十九件の実績、一千万円で広報誌一年分の返礼品があるのも嬉しい。

「米どころ」としてまた県の中央として商工業も安定し財政は健全である。大曲といえば「花火」で今年も四月二十五〜二十九日に国際大会が行なわれ国内外から大勢の観光客が訪れた。観光用のロゴデザインも一新。また刈野・大曲の大綱引き(二月十日)も一大イベントである。今年も第一回全国五百才野球大会が大曲・神宮寺で開催される。(七月十五日)

「市民が主役のまち・ひと・しごと創生法」のもと総合計画により今後四年間の四つの決意(看板産業の育成・チームワーク・機能合体挑戦)を挙げ市民一体となつて頑張っている。特に歴史文化プラス世界先端技術の移入を戦略として人口減対策としているが定住支援も今一歩といったところ。眼に見える成果として三月市立新病院が完成開院した。観光は角館の桜が有名であるが春の刺巻温泉の水ばし祭・西明寺のかたくり群生も見事で、角館祭りのやま行事、田沢湖のクニマスにもっと注目したい。「広報せんぼく」(月二回)は巻頭に市長の「みんな元気になれ日記」があり現在重点としている考えが記されている。ふるさと納税の返礼品は名産品が多数あり本年「あきた小町」(角館産)が加えられた。

先日「西木村の栗」を使った焼酒を発見・入手した。以上基本的事項を述べたが、ライブ映像(両市議会、角館武家数軒の桜等)もあり日々更新される諸事項は有為且つ楽しい情報が得られる。

責任の重さ・人の大切さを、改めて大事に思いました。

「美郷町という」とあるが二ヘクタールの「ラベンダー畑」(昭六三年千畑)も見逃せないし、新日本街路樹百景に選定された「松・杉並木」もある。

斎藤会長に大バツ聞きました

広報委員が鋭く質問しました。

「会長の子供時代」
会長は少年時代どんな子供でした？

「柏賀屋實」
等で寮生活を堪能しました。

「聞き手」
わりとおとなしい少年でした。家の手伝いは良くしました。

「工藤明博」
大学時代彼女はいましたか？
いませんでした。

「聞き手」
会長は大きくなったら何になりたいと思いましたが？

「工藤明博」
責任の重さ・人の大切さを、改めて大事に思いました。

「聞き手」
広報副委員長・柏賀屋實

「柏賀屋實」
会員を増やす為の秘策を県出身者を発掘する、参加して楽しい催物を企画する。友人、人間関係を大切に

「聞き手」
会長は少年時代のもつとも深い思いでは？

「工藤明博」
質問を終えて
大変貴重な意見や思い出を、語っていただき有り難うございました。常日頃の、人柄・人の対しての暖か味を感じます。お身体に留意されて、これからも「秋田県人会」の牽引役をお願いします。

「聞き手」
広報副委員長・工藤明博

「工藤明博」
質問を終えて
大変貴重な意見や思い出を、語っていただき有り難うございました。常日頃の、人柄・人の対しての暖か味を感じます。お身体に留意されて、これからも「秋田県人会」の牽引役をお願いします。

「聞き手」
「会長の子供時代」
会長は少年時代どんな子供でした？

「工藤明博」
等で寮生活を堪能しました。

「聞き手」
「聞き手」
わりとおとなしい少年でした。家の手伝いは良くしました。

「工藤明博」
大学時代彼女はいましたか？
いませんでした。

「聞き手」
「聞き手」
会長は大きくなったら何になりたいと思いましたが？

「工藤明博」
責任の重さ・人の大切さを、改めて大事に思いました。

「聞き手」
「聞き手」
広報副委員長・柏賀屋實

「柏賀屋實」
会員を増やす為の秘策を県出身者を発掘する、参加して楽しい催物を企画する。友人、人間関係を大切に

「聞き手」
「聞き手」
会長は少年時代のもつとも深い思いでは？

「工藤明博」
質問を終えて
大変貴重な意見や思い出を、語っていただき有り難うございました。常日頃の、人柄・人の対しての暖か味を感じます。お身体に留意されて、これからも「秋田県人会」の牽引役をお願いします。

「佐々木育雄」
「医学部時代振り返って、
如何でしたか？」
クラシック音楽・麻雀・

對馬 潤子

先日地下鉄の窓に映る自分の顔を見て、今は亡き父に似てきたと思った。それでしばらくふるさとの思い出に浸った。

かつての石油王国秋田で栄華を誇った豊川油田跡が、現在の潟上市東部に

ある。そこがかつて働いていた私の祖父の末っ子が

父だ。九人の兄妹たちに囲まれてのんびり育ったらしく、私が成長した後も甘えん坊であった。父が子供の

頃は豚を飼い、米も野菜も祖父が無農薬で作った。みた。さすがに豚こそ飼って

そ汁の具は八郎潟で採れたシジミが定番であったと聞く。「無農薬」「天然」といった言葉に今ほどありがたみ

地下鉄の窓に

父似の私

を感じる事もなかったに違いない。

幸いにも(今の時代に生きたら)「石臼」「いろり」に「かまど」まで実家があり、それらを操る祖父を見ながら育つたのだ。夏の夜に両親や弟と

エッセイ

した。まずは青森駅まで、次の乗り継ぎは連絡船というコースで、青森駅近くに

なる頃、車掌が乗船名簿用紙を配布して廻って来られ

思い出 時代と共に

昭和三十年代は、今のJRがまだ国鉄時代で、SL列車が走っていた頃でした。高卒後就職のため、東能代駅から北海道を目指して、一人車中の人となり

紙を配布して廻って来られました。渡された用紙に早速記入し、大事に持参して

が長く、今降りた乗客達が皆さん何故か、小走りに走り始めたので、私も仕方なく後に続いて走り出しまし

眺めた近所のホテルもすっかり記憶に残っている。

私が秋田を発った平成六年から現在に至るまで、生活環境や価値観だけでなく、人間同士の交流手段までもが劇的に変わった。今文章を書くのに紙も筆記具も必要としないSNSを通じて秋田の情報や豊川油田の歴史、はたまた同級生の近況までも画像付きで瞬時に知る事ができる。その一方で長閑な生活や時間をかけた人付き合いは、ある意味大変贅沢なものとなった。

「とうみ」「足踏み脱穀機」「粹」といった農機具から「白臼」「いろり」に「かまど」まで実家があり、それらを操る祖父を見ながら育つたのだ。夏の夜に両親や弟と

乗船して初めて分かった事ですが、連絡船内では椅子とカーペット敷きの部屋に分かれて居り、その良い場所取りのためだったの

た。乗船して初めて分かった事ですが、連絡船内では椅子とカーペット敷きの部屋に分かれて居り、その良い場所取りのためだったの

(男鹿南秋彦)

エッセイ

青函連絡船で北海道に渡り四十五年、札幌に住んで三十年になります。月日の経つのは早いものです。

由利本荘市の生れ。私の家は山の手にあり、遠くに雄大に聳える鳥海山が望まれる。町の中央を子吉川

が流れ日本海に臨んでいく、そういう景観とともに過ごしている生活でした。春は川で魚釣り、夏は海で海水浴、冬は裏山の新山公園でスキーを楽しむ、山あり、川あり、海ありの自然の中で育ませていただいた、そういう環境が今の私の職業、「ソムリエ」という仕事にとって大変な糧になっておるものと思っております。

札幌由利会会長 澁谷 昭

ふるさとは『人生の糧』

お客様に接することが好きでサービス業の世界に入り、ボーイさん、バーテンダー、そして、ワインの世界に魅せられソムリエという仕事を

(5ページ下段へ)



OFFICE SHIBUYA

ソムリエ・ワインコンサルタント 代表 澁谷 SHIBUYA

〒064-0912 札幌市中央区南12条西6丁目1-20-1001 TEL・FAX 011-531-9771

- 業務
- *ソムリエ・ワインコンサルタント
- *ソムリエ・配膳サービス
- *ソムリエ・ワインプランニング
- *ソムリエ・ワインイベント
- *ソムリエ・ワイン講師
- *ソムリエ・ワイン講演
- *飲食店・ワインプロデュース
- *宴会・レストラン 斡旋
- *他

昭 AKIRA

(前ページ下段から)

S Lに引かれて先ずは札幌まで、それから札幌駅で乗換えて札幌線石狩当別駅まで、当別駅からさらにバスで新篠津地域の国営事業が進められている、目的地の現場事務所によく到着した次第です。

家を出てから初めての一人旅、緊張しながらの旅で、今でも当時の情景が、私の脳裏に懐かしく、走馬灯のように浮かんでまいりま

成田 良作

私は鹿角郡小坂町出身、昭和十七年五月生まれで間もなく七十五才になります。

八人兄妹の下から三番目の四男です。山間部の三反百姓で昭和三十六年三月地元の小坂高等学校卒業後横手市に本店のある羽後銀行に入社、転勤が多く仙台、東京、山形、秋田県内と十ヶ所歩き、昭和六十二年秋田市内落ちついたら北海道札幌市異住を考へ間もなく今の自

す。

昭和二十九年秋に函館港沖合、七重浜で台風による連絡船洞爺丸の遭難事故があり、残念ながら多数の犠牲者が出て仕舞いました。

このような事故があつて以来、急速に青函トンネルの話が世間でも話題となり、事故から約十年後の昭和三十八年二月から昭和六十二年十二月まで、国営事業として青函トンネル工

宅の手稲区新発寒の地を求めました。妻がオホーツク紋別雄武町であつたことに加え、義弟妹達も札幌に住んでいたので求めは早目に決

まりました。銀行退職後開始に赤レンガ文書館で北海道の歴史全体が解かる「年表」を求め、六世紀中頃の「大化改新」からの動

「札幌」に異住して間もなく四年

事が着工となりました。トネル総延長約五十四キロメートルの区間で、工事施工中は海底下約百メートル部分を掘削するという大工事でした。工事中は漏水など様々な困難を乗り越えて完成されたと聞いて居ります。工事に携わった皆様方には、心から感謝の外ありません。トンネル完成以来、青森と函館間は路線も電化され、時間的に大幅に

短縮され、大変便利になったようです。更に昨平成二十八年三月には新幹線が開通し、列車が青函トンネルを通過するのには、僅か三十分程でトンネルを通り抜けて仕舞うそうです。

今年の三月で一周年を迎えて、観光客の流れが増加し、経済効果も上がっているようです。新幹線の札幌までの延伸は今後十数年先のようにですが、最近、道内

ラザに自ら足を運び、秋田県人会入会をし、落ちついたところで自分の当面の目標と考へていた「北海道の歴史」について調べにかか

りました。始めに赤レンガ文書館で北海道の歴史全体が解かる「年表」を求め、六世紀中頃の「大化改新」からの動

地方J Rローカル線は少子高齢化や社会の産業の変化に伴い、赤字路線が増加し、やむを得ず廃線に追い込まれるという何とも寂しいニュースが新聞やテレビで報道されているようで、各市町村長さん初め道庁や国を挙げて何とか良い方向へ向かって行ってもらいたい

ものです。(能代山本会)

が忍ばれます。又札幌市の前身である「札幌村」や北海道全体が解る「北海道歴史記念館」は時々訪問した

いものです。この紙面ではほんの一部しか書けませんでしたがアイヌ文化は北海道の原点でしょう。今後深掘りし「記念館」が完成したら行つて見ます。当面の楽しみは五月から始まる市民カレッジの中の「明治維新と北海道開拓」セミナーを心待ちにしております。

森他が多く、先人のご苦勞

(4ページ下段から)

が、近年急激に増えてきており、今では三十件を越えております。

もともと北海道は寒冷地ということもあり、ぶどう栽培ワインづくりはなかなか難しいものと思われていたのですが、最近は素晴らしい品質のワインが、品づくられてきております。又、国際品種といわれるぶどうも本当に良く出来るようになり、ワインとともに生きていく我々にとつては大変嬉しいものでもあります。これが地球温暖化の影響によるものとすれば、なぜか喜んでばかりでいて良いものかとも思いつつ、少し不安にもなるものです。

日本のワイン消費量も成人一人当り年間三・六リットル位にもなつてきております。そんな中で、一九八五年より日本ソムリエ協会が与えておりますワインを扱うプロの資格を持つかたも五万人近くにもなつてきております。

おかげさまで私も、ワイン塾の講師、調理師学校の先生、いろいろな企業からのワイン講演などで年々多忙になってきており、大変ありがたいものでございます。

よくお客様から、ワインを楽しみながらの上達な

色を見て 香りを考え 味を楽しむ

どのご質問を受けるのですが、ワイン学についての基本的な知識を少しだけ知っていただき、日々楽しむワインの最初一杯目だけは、グラスに注いですぐ飲むのではなく、色を観て、香りを考え、味を楽しむようにし、又、一言で良いのでそのワインの印象をノートにでも記録してこれを継続していただければ、気がついた時にはかなりのワイン通になつておることと思ひます。

北海道の四季は素晴らしいものです。是非これを機会に、道内のワインナリー巡りを楽しんでいただければ、さらなる人生の楽しみにもつながるものとおすめいたします。

札幌由利会も今年で四十二年目を迎えます。私も会長を務めさせていただきます。前大友会長や諸先輩の皆様にはこういう事を通して、私の勤務するホテルやレストランをご利用いただきながら、公私ともにご指導いただいたの今の私のある事をいつも心から感謝いたしております。これからも、札幌由利会、秋田県人会のさらなる発展の為に、役員、会員一同精進いたしてまいります。

たしてまいります。

三浦 潔

「秋田銀行秋田支店」という店舗がありました。二〇一四年に大町支店へ統合され、その後建物も取り壊されたと聞きます。

なお、私は「秋田銀行」や関連会社の職員・OB・関係者ではありません。

十年ほど前に初めて秋田観光をする機会があり、その時に「赤れんが郷土館」等に行きました。街並みを散策していたと

き、偶然見つけた建物が「秋田銀行秋田支店」でした。

「銀行あるある」みたいな話ですが、県名がつき、県庁所在地に本店を持つ銀行は、同名の「支店」がある

秋田銀行秋田支店

ことは珍しいことで、全国に数行しかありません。

旅先の一枚として、夫婦で店舗前にて行店名をバックに記念撮影してきたものです。

後で知りましたが、この建物は元々「秋田貯蓄銀行」(一九二二)完成、今も立派な、綺麗なものです。

この「赤れんが郷土館」となっている建物に「秋田銀行秋田支店」があった時期もありました。が、戦後GHQに接収され、結局、支店は「秋田貯蓄本店」あとの店舗に戻った経緯とのこと。赤れんが郷土館から近い場所にあった「秋田銀行秋田支店」。建物の保存には種々の事情から難しかったのかもしれない。

昭和十八年(一九四三)に現「秋田銀行」と合併の歴史。「赤れんが郷土館」は県人の皆さまは周知でしょうが、「旧秋田銀行本店」

違いが無くなったと聞いております(が)多少違和感があつたと聞いておりますが、やはり仙北衆となりまして一段と親近感を抱くのも当然だと思えます。妻も大曲育ちですから私も大曲

の建物で、明治四十五年(一九二二)完成、今も立派な、綺麗なものです。

現在のコンビニが営業しているようです。保存できるものはしていただきたいと、庶民の願いですが、時代背景等にはかなわないものなのでしょう。他の「古き時代」のものも、なくなる前に...

昭和十八年(一九四三)に現「秋田銀行」と合併の歴史。「赤れんが郷土館」は県人の皆さまは周知でしょうが、「旧秋田銀行本店」

の生徒であった頃まで大阪弁で話しておりましたから、家の中では秋田弁を聞き(喋る事は出来ませんが)外では大阪弁で喋って居りました。昭和の初め頃は会社から郵便物を出すのに秋田県とは書かずに「羽後の国、仙北郡刈和野村」と書いていたのを覚えています。これも亦、隔世の感があります。

六十万両の借用を政府に申し出た。

更に医学教育充実として士族の子弟の入門、患者が増加している為、医学院の教授を二名と洋学校の助教二名の派遣を文部省に要請した。同時に秋田市内の広小路土橋・通町橋・茶町横町の四ヶ所に立札を立て開発のための寄付を一般に求めた。又、大蔵卿大久保利通に建白書を提出した。

計画は実現しなかった。八郎潟の干拓については、島義勇が有明海の干拓が盛んな佐賀の出身である事を考へると、八郎潟の干拓の計画をしたのは当然であった。

後年実際に八郎潟干拓事業が着工されたのは、小畑勇二郎知事の昭和三十一年の四月である。その後十一年経って昭和四十三年に第一次入植者五十七名が耕作を開始、干拓事業の竣工は昭和五十二年で広大な農地を耕して今の大潟村があります。

共に挙兵、戦に敗れて明治七年四月十三日には、梶首の刑となる。享年五十二才であった。

その後生前の勲功に大正五年(一九一六年)従四位を贈られ、汚名は注がれて命日四月十三日には島判官慰霊祭が毎年催される。参考のため次の事を記しておく。円山公園の桜は従者であった福王仙吉が島の死後、その鎮魂のため明治八年、札幌神社の参道に植えた百五十本が桜の始まりとなった。島の人形をあしらった山車「開府判官」として山鼻祭典区によって供奉されている。北海道神宮の四神は島義勇が着任する時、自ら背負って札幌入りした開拓三神が次に記す神である。

一、大國魂神 (オオクニタマノカミ)

二、大那牟遲神 (オオナムチノカミ)

三、小彦名神 (スクナヒコナノカミ)

四、明治天皇 (昭和三十九年追加合祀された)

平成二十九年三月

義勇は佐賀に帰国後「佐賀の変」で郷里の憂国党の党首に推され、江藤新平と

今野 陽二

私は終戦直前に大阪から両親の郷里・刈和野へ疎開してきた者ですが、北海道に来てからも親兄弟たちの居る刈和野へ帰郷しすつかり秋田人(仙北人)になりました。

昔は国鉄の急行列車と青函連絡船を使って殆んど一日がかりで刈和野へ帰郷しておりましたが、今は飛行機で秋田・札幌間は日帰り出来る時代になり隔世の感を抱いております。「秋田県人会」と言っても秋田市近辺、北秋、南秋では多少言葉も違い(現在は殆んど

には時々参ります。話は戻りますが、大正の終りから昭和にかけて大阪で事業をしていた父(大曲出身)は、会社の従業員や女中たちも皆秋田から呼び寄せておりましたので(それ

大阪から刈和野、そして札幌六十五年

えております。(当時の朝鮮半島は日本の領土であり、日本国籍の朝鮮人が大阪には沢山居住して働いていた。)

私は幼時近所の子供達と遊んだ時から、小・中学校

融解できたのもラッキーだったと思っております。私は北海道(札幌)へ来

平成二十八年十一月・仙北会に出席して)

平成二十九年三月

私が札幌に住むことになつたのは偶然であつたが、今考えると必然であつたようにも思う。

私の生家は市町村合併により今は横手市に編入されているが、当時は平鹿郡大森町字上溝、通称八沢木と言われているところであつた。山間の村で文字通り八つの沢からなる辺鄙な所。バス停まで出るのに歩いて一時間もかかつた。高校は横手高校(美入野)に進学したが、自宅から高校まで約二十km。夏場は自転車でも通学できたが冬場はとて無理。そこで高校の近くに冬期間だけ下宿することになった。この辺では農家の方が冬場の副業を兼ねた下宿屋を何軒か営んでおり私もその内の一軒にお世話になることになった。

大家さんは高橋さんといひ、二階の二間を下宿としていた。私が高校一年の冬、十一月の末であつたかと思

私はこの数年九月に秋田に行く。以前は中学の同期会のため六月下旬に行くことが多かった。パイパスが出現したりして故郷の町の変化を感じて来ました。十文字町を離れて十年毎に大きな変わりを感じたところ

うがこちらに入居すると既に三年生の先輩が隣の部屋にいらした。挨拶に何うと「受験勉強で忙しいが九時から九時三十分まではコーヒータムにしている。息抜きのために十分は一緒にコーヒを飲みながら雑談しよう」。冬休みで帰省した時や受験の為に部屋を開ける時を除き先輩がここを

の考えは大きく変わった。恋愛感情に似て調べれば調べるほど自分の中でどんな想像が膨らみあばたも笑くば状態になった。旭川に親戚があり小学生の時に一度だけ北海道に来たことはあつたが札幌は初めて。遙かに広がる地平線の向こうに青空が広がっている田園風景。札幌は私の中のイ

る四月の風が非常に強く肌寒いのが印象に残つた。こは土煙舞う荒涼たる砂漠の中の街。ならず者が集まる酒場の前の通りを夕闇迫る頃、枯れ草の魂が風に飛んでいく。無法者とヒーローが酒場のカウンターで隣り合い目と目から火花が飛ぶお決まりの西部劇の緊張のシーンを思い浮かべ、

があつた。私より年次が二年以上の後藤さん、確か大曲のご出身と伺っていたがその名簿を見る限り後藤さんという方は一名しか見当たらない。お勤め先は安田火災海上保険(株)。仕事の関係でこの会社とは親しくしており確認して頂けた。しかし、まったくの別人であるということであつた。何か狐につままれたような気分が残つた。

高校生の時にたまたま下宿屋で隣り合わせた先輩との出会いが札幌、北海道へ導いてくれたのだと思つた。不思議な気がする。この先輩に限らず幾多の出会いがあり今日の自分を作つてくれたのだと思つた。お世話になった方々の顔が思い浮かび感謝の気持ちが湧いてくる。札幌に来たばかりの頃感じた風の強さは今は気にならない。春を運んできてくれる馬糞風の季節がまたやってくる。

歴史は壮絶なドラマの連続であつた」とか(北の大地に繰り広げられた先人たちの壮絶な生きざま)とか勇壮でお奇麗な表現だとは思いますが、私的には何かしら空虚なひびきを感じるのです。その理由は登場人物は小林多喜二のような可愛想な人は稀でたいへんな苦勞はしてもほとんど勝利者でありこの一握りの成功者の影には何万何十万という路傍の石のような気の毒な民草が存在したと思うからです。まぎれもなくその哀れな民草の一人である自分ゆゑむなしさを感じるのかも知れませんが、その自分も渡道して早六〇年近くになつてしまいました。その六〇年は思い出すのも嫌になる不運なドラマ(?)の連続でした。労働災害数知れず交通事故も又同様、火事に大病など九回も一〇回も死に損ないました。信心ぶかいわけでもなく善行を施してきた訳でもない自分がウタテクな程の災難の中この年令まで生きてこれたのは何ゆゑだろうか、単に運とか奇跡がかたずけられるものだろうかと後期高齢者になってから急に命短性きたなくなつて、この先寿命を全うするためには何かしなければならぬだろうかとかとククヨ考えるよう

馬糞風が吹き始める頃に

札幌秋田県人会幹事長 原田彦工門

出るまで毎日この日課が続いた。

この休憩時間の会話の中で、先輩のお兄さんが北海道大学の学生であることや、北海道大学がどんなにか魅力的なキャンパスであるかというお話を伺い関心、興味を持ち始めた。それまではなんとなく東北大学を志望していたのがこの先輩との出会いによつて私

メージでは「北の国から」の世界であつた。実際に来て見てこれは単なる私の思い過ごしに過ぎなかつたことが分かつた。それでも大した落胆はしなかつた。受験勉強から解放されてまさに青春を謳歌しようとする気持ちは高揚していたし、なにやら妖しげな薄野という街も近かつた。ただ大学のキャンパスの中を吹き抜け

札幌の人たちの心もささくれ立っているに違いないと勝手に思い込んだ。共通点を強いてあげればアメリカ西部も北海道も開拓の地といふことか。

ところで、後年高校の同窓会名簿が届き、私を札幌に誘ひ結果的に人生の大半をここで過ごす事になるきっかけを与えてくれた先輩の消息を調べたこと

秋に行くようになって驚いたのは三角山から真と山

スがたくさんあるのかなと思ひました。現地を車で

れていました。リングゴの下も色づくように反射される

かわりゆく故郷の山河

横手平賀会 堀川 輝男

にかけての山裾が光つてい

走つてみたら違いました。アルミシートが敷きつめら

ため敷いているものでした。平鹿リングゴの産地です

から大変な努力をしているのが判ります。

ふるさとの緑の山河と言いますが光景を一変させることがあると複雑な気持ちになりました。

秋田新幹線が出来て以来、奥羽本線のさびれようは甚だしいものがあります。かつて特急が何本も

命の恩人は秋田弁

秋田市ふるさと会 秋元 敏見

民放の人気ラジオ番組に、ほっかいどう百年物語という番組があること皆様方よく御承知のことと思ひます。書店でも単行本としても販売されてもう一〇冊位になつたかも知れません。

その中の秋田県人として小樽市に銅像がたつた参列者一万人とか言われた土崎出身の財界超人物藤山家吉(旧姓古谷)異色の作家小林多喜二などほんの数人なんです、なんと言つても我秋田県人会五代目会長栗林元二郎氏がいらつしやるわけ。今話題の札幌八木問題で脚光を浴びている八紘学園の創立者であり、またジンギスカン料理の草分けとしても知られております。先般惜しくもお亡くなりになりました元北大教授で秋田県人会顧問河田啓一郎先生が札幌秋田県人会創立一〇周年記念号に栗林元二郎氏の偉業を語っておられます。栗林さんの姪御で栗林さんが可愛がっていた方が角館で山菜料理主体の料理店を経営されておられますのでチャンスがありましたら是非おでかけ下さい。(東海林愛子さん)さてそのほっかいどう百年物語のラジオ放送では冒頭に必ず語られるフレーズがあります。

命の恩人は秋田弁①

(次ページへ)

(9ページへ)

(前ページから)

走っていたものが、各駅停車が一時間に一本という全くのローカル線になり、駅

故郷を離れて札幌に住み、半世紀もたちました。

私の実家は潟上市にあります。昨年八月、お盆の準備もかねてお墓参りに行きました。この日の秋田は私には猛暑に思えるほどの暑さでした。

家から歩いて二十分ほど、小高い山のふもとにお墓があり、水田が広がりのどかな風景です。

札幌と秋田を行ったり来たりしながら子供のいない兄を看取り、六月に一周忌も終えた今、これでよかつたのかと、墓前で自問自答している私がおりました。



前は閑散としています。人が見られるのは道の駅かスーパーと全く変わってしま

誰もなくなくなった実家はさみしいけれど、庭に黒ブドウ、巨峰、アケビなどが

何事もなかったように実っていて、心も和らぎました。仏様にカラフルなつるし「トロンコ」をいっぱいにして並べて飾り、仏具もピカピカに磨き、お盆らしく

側大手門堀の広さだけで一万三千平方メートルあり札幌ドーム、アリーナの約二倍。

まいりました。人口減少全国一に歯止めができないか気にしています。

駅へ。

駅から歩いて五分の所にある千秋公園に向いました。近代的に整備されてから百年、時季によつては、さくら、つつじ、などがきれいで秋田のシンボルと言われている。大手門堀と穴門堀と二つあり東

すが、表現力の不足に反省するばかりでした。私もいつしか観光客に混じりきれ

小学校、中学校の学力が全国上位に並んでいることは勇気づけられます。是非、

優秀な若者を輩出する県として頑張っていたいただきたいと期待しています。



実家のお墓参りと蓮の花

男鹿南秋会 藤井 悦子

この広い堀に蓮の花が満開に咲いていたので。感激でした。泥の中からしなやかに伸びた茎、ふんわりとしたつぼみ、ピンク色の花も穏やかでなぜか神秘的です。手芸で蓮の花を作ったことがあります。

いね、と連発しながら堀を一周してました。堀の辺にババヒラアイスが売っていたのです。おばあちゃんがヒラでアイスを盛りつけることからババヒラと呼ばれています。なんと、秋田美人のおねえさんでした。私も注文しておいしいわ。幸せだわ。暑さもふつとんでいました。帰り際に気をつけて帰ってねと、おねえさん、秋田美人

はやさしいね。帰り時間もせまり、駅前よりリムジンバスで秋田空港へ、暑かったけど蓮の花がきれいでしたと雑談しながら空港のカウンターで荷物を預けて、空路札幌へ。到着後に荷物になまはげの顔の小さな手紙がプラプラ下っているのです。びっくりしました。空港カウンターのおねえさんからでした。蓮の花を見てよかったね。暑さがまだまだ続きます、体調に気をつけてねと書いてありました。お心遣いに感謝しつつ、本当にうれしくなりました。

お墓参りでいっぱいのおねえさんささささ頂きました。

(8ページ下段から)

になりました。恐山のイタコがあるかなと考えてみましたが根が小心者のため、恐山の名前を聞くだけでびびってしまい、秋田の友人に相談してみました。友人は「昔エジコやっていたも今やめたへチャムクレの八掛見婆さんの見立て良く当てるでや話だ見でもらえ」見てもらいました。

その元エジコ婆さんの御宣託は次のようなものでした。「オメハン恩義に厚いドコあるしな、今でもオメハンが忘れぬ恩人のひだべな、これから先もその恩人忘れねば死ぬまで生きるしべ」これからその恩人の話を致しませう。

六〇年近く前、秋田の鉱業専門の学校を卒業して北海道の小さな会社に就職してすぐに行かされたのがトンネル工事現場でした。そのトンネル工事というのは石狩と十勝を結ぶ新狩勝トンネルという大きな工事で日本を代表する土建会社K島組とかN松建設とかM田工業とか何社も工区毎に分かれ鑿を削っておりまして。

自分はK島組の下請けのそのまた下の協力会社の鍛冶場とか言う現場で機械修理の見習い工でした。宿泊り食事は飯場と称する土工連中と一緒に合宿所でありました。当時はまだタコ部屋という言葉通りタコ部屋で殺人者を筆頭にありとあらゆる犯罪者(OB)の土工連中と寝食をともにしました。

自分が勤務した一年足らずの間にもトンネル工事で一〇人以上の死者の出た難工事だったのです。明日の命も知れない難工事のせいもあってか土工連中は意外に仲良く、そしてお人良しが多く自分は年少ということもあり可愛がられてタコ部屋の影響は悪くはなかったです。

自分の毎日の仕事のある鍛冶場には六〇才位の昔なら相当イケメンだったと思われる佐々木さんという人が居りました。とても腕のいい人で工事現場の凡ゆる機械の修理を一人でこなしておりました。すぐ親しくなり仕事の合間に色々話をしました。秋田訛に感じたので、「アタ秋田の人でねしか?」「んだ、良く分ったな土崎よ、オメは?」「県内を転々として住所不定みだもんだし、本籍は南秋田郡保戸野鉄鉦町というところだ!」「なによ隣だべしや」

たいへん親しくなり親子のような年令差もあつてか普通は教えない職人の技を親切に教えてくれました。本当にやさしい人でした。生涯忘れられない恩人の一人です。事故の多い現場でもあり自分もケガをしてしま、一年足らずで選手交代の日がきました。佐々木さんは「おめえ、えなぐなると淋しなや、誰にもゆつたごどない話だども、おめえ聞く耳あるがや」「もちろんあるし、仕事

(次ページ下段へ)

男鹿南秋会「だまこもち鍋会」

郷土料理の「だまこもち鍋会」が3月4日サッポロファクトリーで開催されました。この会は男鹿南秋会主催で今年で3回目です。

「だまこもち」とは、キリタンポと同じく米を潰して作りますが、キリタンポと違い、棒状にして焼かずに団子にするだけです。作ってすぐに食べられますが、塩水に漬けておくと数日間は保存できます。八郎潟周辺が発祥とされ、きりたんぼの原型と言われています。五城目において、1953年に三笠宮親王が五城目町でだまこ餅鍋を食べて称賛したことを契機に、町を代表する料理となったそうです。

鎌田さんの軽快で楽しい司会で始まり、新会長の藤井さんが自ら作っただまこ餅を説明しながら、各テーブルを廻ってごぼう鶏肉セリと入れていきます。11月きりたんぼ以来のお馴染みの作り方。秋田の人達はこの組み合わせが大好き。



手作りのだまこ餅を自ら指導する藤井悦子新会長



五城目の銘酒「十五代彦兵衛」

酒は五城目の福祿寿酒造の「十五代彦兵衛」が振る舞われました。この酒は、さらりとしたフルーツのような香りで、とても美味しく酒でした。

最後は恒例のお楽しみ抽選会で、お土産をもらいました。だまこ餅は冷凍しておくともいつでも解凍して食べられますので持ち帰る人もいました。

藤井会長が書いてくれただまこ餅レシピです。簡単に作れますので皆さんも秋田こまちで作ってみてください。

今回参加してみて感じたのは、一つの都市会でイベント開催するのは人数的にも大変なので各会が参加して盛り上げていこうということです。秋田市ふるさと会ではこういったイベントはしてないので、周辺都市会の協力で何か考えていこうと思っています。

だまこもちの作り方

材料 お米（秋田こまち）4合、もち米1合、片栗粉大さじ1、塩小さじ1

- 作り方**
- ・ごはんは少々かためにして、片栗粉と塩を入れてつぶす。
 - ・手に塩をつけてまるめる
 - ・ボールに塩水を作る
 - ・丸めただまこもちを5分間入れる
 - ・水を切ってから冷凍にする
 - ・当日朝に自然解凍する
 - ・塩水に入れなくても良いが、煮崩れが少ないと言われています。
 - ・お米五合で60個、大きめで55個が作れます。

秋田意外史

「島津新八郎の死」
「官軍の連敗と応援隊」

私の実家は旧大曲町十日市二ツ森と言う、八幡神社

の社殿の側です。八幡神社の祭は浴衣まつりと言われる地元では結構知られていますが、実家の真後ろの境内に

島津新八郎の墓碑が鎮座していません。子供の頃は何か知らず遊び道具の一つとして。今回は秋田市にある出版社「無名舎」より出版されている秋田意外史から地元の当時の事が分かります。

戊辰戦争は今から百五十年前、慶応四年（一八六八）から明治元年にかけて新政府軍（官軍）と佐幕軍（賊軍）が一大決戦をした国内戦争である（略）。慶応四年一月三日、官軍と賊軍が

奥羽の地にまで波及した。詳しい戦況は紙面の都合で割愛し、主として秋田藩が官軍として庄内・仙台・南部藩兵と激戦し苦戦、敗戦を覚悟する窮迫した戦況となった頃から書いてみたいと思います。

（次ページ）

命の恩人は秋田弁③

（前ページから）

のごとだばいっぺ教えてもらったしども、なんだし「おなごの話よ、おめも嫁もらう破目になるが知れねどもな嫁コなんてもらうもんでねど」
「……?」
「もしもな万一もらうことになったらよ仙北の女ごは絶対だめだど」
「ええなしてだし、北海道に来たがら、その機会もねど思うしども俺のババもオンバも仙北の生まれだしが」
「ほそそそげ、ええ女ごだったべし」
「なもだし、めぐせがったし」
「んだが仙北の女ごだば美人えるはずだどもな、仙北の女ごでねてもよ、ええ女ごは絶対もらうもんでね。おねこかぶりはだめだ。ほじなしのめくされたまぐらのじゃべくされにひよ」
自分は意味がわからず、みたくない、生意気なバカ女ごを選べという意味かなど、ただうなずくしう仕方なかつた。佐々木さんは人から聞いた話だと断って、つづけて次のような恐ろしい話をした。

南秋の若い男と仙北のめらしの若夫婦がまつめ（松前）？だが出稼ぎに来たときよ。男は山子（山林で働く人）カカは町場のめしや（食堂）で別れ別れに暮らしていたとよ。造材現場の飯炊き婆さんが、よたつたどて親方が若い男にカカを飯場のままがめ（食事の支度）やらひで一緒に暮したらとすすめたときよ。これが命とりになってしまった。はじめの頃は幸せだったが、ある春先頃山子達の多くがまつめだか福島だかに遊びに行ったが大嵐のため何日も飯場に帰れない破目になってしまった。若い夫婦者のほか数人しか飯場に残っていません。その中の一人が秋田県人ではない）が若い男に
「オイちよつと相談があるんだが」
「ハイ」
「ちよいとお願いがあるんだが」
「何でしか」
「今夜一晩カカアを借して欲しいんだが」
「冗談でしょ」
「冗談でもヘチマでもない。ものは相談だ。よく考えてみなよ、この山の中でよ、お前さん一人いい目をしてるからついでにいつか、考えてもみるよ今日みたい嵐の日火事起きたら俺らは死なばもろともんだ。雪崩が来たら皆一緒に死ぬのだ。俺等は皆兄弟分だ。自分ばかり良けりやそれだ。いいいというもんじゃないだろう。お前さんの宝物はちゃんとお前さんのお願えしてらんだ。どうだい話分つたらう早く返事しろ」
若い男は真青になりぶるぶるふるえるばかり抗がうにも四人も五人も相手にどうしようもない。外はものすごい嵐でカミナリまでとどろいている。女は男の足許に泣き倒れて声も出なかつたが、
「んた、んた、んた、ん

（次ページ）

(前ページから)

兵員と装備に圧倒的な優勢の賊軍莊内・仙台・南部等に対し、旧式兵器で装備された秋田藩兵は士気があがらず、連戦連敗であった。七月二十九日官軍は院内を引上げ、八月五日雄勝郡は莊内軍の手に収められた。九州緒藩の応援隊の一部が参加したが、勢いに乗った賊軍の攻勢はすさまじかった。六日には本荘城落城。十一日には横手城も落城する連敗ぶりであった。劣勢を盛り返すため、九州諸藩の援軍が続々土崎港や能代港に上陸した。七月六日、鍋島藩兵二千五十余名命は土崎港へ上陸し由利方面に向かう。七月二十五日には長崎振遠隊三千八十名船川港に上陸、仙北方面に向かう。七月二十八日鍋島藩兵三百六十名土崎港に上陸。能代港に六百三十名上陸、八月一日久保田「秋田」へ集合す。八月十日、大村、島原藩兵三百名脇本浜に上陸。八月十六日、大村、島原、平戸藩兵五千三十余名来着。八月十七日、十八日薩摩藩兵九百名、肥州藩兵五百九十六名土崎港に上陸。八月二十一日、肥州小城藩兵百七十二名和脇本浜へ上陸。二十三日も同藩兵四百三十九名船川港に上

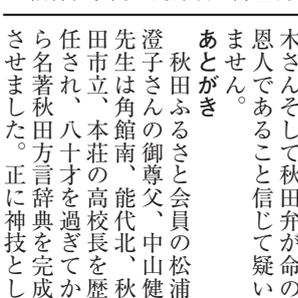
陸。仙北方面と新屋へ向かう。八月二十九日筑州兵四百五十名船川港に上陸。九月八日、薩摩藩兵五百名船川港上陸。以上が「秋田県史年表」から拾った官軍援兵である。九州地方は古くから外国と貿易(密貿易も含む)をしていたので、外国の事情を良く知っており優秀な兵器が戦局を左右するとして、最新式の鉄砲(洋銃)や大砲を大量に買入れ訓練をしていた。これに対して東北緒藩、特に秋田藩の装備は劣っていた。旧式の火縄銃や弓、槍が主力であり、もし「官軍の応援が」あとわずかでも遅れていたら、秋田県は全土が戰場となり、焼土と化していただろう。仮に秋田藩が敗れていたら、「戊辰戦争」に黒い影を落とすとして、新政府の行方に大きな影響をあたえたであろう。「島津新八郎」は薩摩藩応援隊の一隊長である。

「花館合戦」

横手城を陥落させた莊内藩大隊長松平甚三郎は八月十三日、余勢をかって大挙して角間川に殺到した。その数三千余名とも言われる。官軍は善戦及ばず、遂に敗走した。途中渡船場に先を争って敗走してきた官兵や避難者は足許をさらわれ、河中に転落した。更に銃弾の雨にさらされ、溺死者や戦死者が多かった、秋田藩の隊長長谷川敬之進も戦死した。追撃は激しく、態勢を立て直す暇もなく玉川を渡って神宮寺に退いた。大曲や花館の人々は戦々恐々家財を捨てて僅かの留守番が残り山に避難した。侵入した莊内軍は略奪をした。莊内軍の大隊長松平甚三郎は大曲の大川寺(大仙市で一番大きい寺です)に本営を置いた。大川寺の住職は大隊長松平甚三郎を迎え(小生が大曲小学校当時約六十五年前当時の住職棟方宏源氏はPTA会長でした。当時の大曲小学校の在籍数は約千八百五十名でした)これ以上戦火が大曲に及ばない様に嘆願し本営を務めた。「戊辰莊内戦争録」に書いてある。一方官軍は副総督沢為量を先頭に神宮寺に本営(もとの御役屋)を置き、玉川を挟んで庄内軍と対陣した。沢は緒蔭を集めて軍議を開き、玉川と雄物川を最後の防衛線として死守する事にした。玉川は急流、雄物川は水量豊かな大河で天然の要塞であった。仮にここで敗れたら、久保田の

本城は風前の灯火である。これまでの敗戦で殺倉地の大半を既に失い、また兵火にかかり計り知れない被害を受けている。まさに藩の存立にかかわる決戦でもある。攻撃の賊軍にも深い悩みがあった。短期決戦で勝利を取れないと、官軍の応援隊が大挙して土崎に上陸しているとの情報が、しきりに探索によって伝えられる。勝敗が逆転しかねない状況で焦りも見えて来た。「島津新八郎の勇戦」

先に述べた様に官軍の援軍が続々と上陸して来た。八月十七日薩摩の島津登、「島津新八郎」等が精兵九百余名を率いて土崎港に上陸。直ちに作戦は開始された。「島津新八郎」は五百余人を分隊、危急を告げる神宮寺の本営に駆けつけた。「大曲町郷土史」によると、本営で軍議を開き、島津隊、島原隊、矢島隊は花館を占領している敵を攻撃。秋田、平戸藩兵は神宮寺獄守備隊を応援、秋田佐竹河内隊は角館方面へ。小倉、大村藩兵は



八幡神社境内の島津新八郎墓碑

角館口より国見方面に進撃する事になり、二十三日進発した。島津隊は大砲隊を先鋒に玉川の浅瀬を渡り四ツ屋の仙台兵を猛攻した。莊内藩の援軍も駆逐し、占領された花館も奪回した。ここに大砲を据え、盛んに大曲に砲弾を打ち込んだ。また莊内軍の応援で激烈な砲撃戦を交えた。彼等の砲声は雷鳴の如く耳を聳し、あちこち火の手が上がった。夜に入ると、莊内、仙台兵は官軍の奇襲を恐れて大曲の店々の大庇を外させ、街道数カ所に積み火をかけ終夜篝火とした。「新八郎の戦死と資料」大曲の本営で指揮をとって松平甚三郎は、急変した戦況に対処するために緒蔭を集めて討議した「戊辰庄内戦争録」に「大曲の方では莊兵の心痛一方ならず緒蔭会して額を集める時、服部純蔵進み出て、此まま戦は勝つべき道のありとも見

(9ページ下段から)

たでばやめでける」女の悲鳴を聞くとも男はその場に失神し倒れてしまった。息はふきかえし、再びいきり気が狂ってしまいが、正気に戻ることはなかった。その造材現場の飯場は恐れていた雪崩にあいこの夕ジャクな罰当たり山子たちは小屋もろとも消えてしまったのである。この若いメラス仙北美人も行方不明になったと、この恐ろしい話は終わった。自分もしかししたら佐々木さんが自分自身の悲惨な体験を話しているのかも知れないと一しゅん思ったがきけるわけもなかった。自分は小学校四年生も五回もかわる程秋田県内を転々として不幸な子供時代であったが、ただ転校のせいで地域で違いのある秋田弁をなんとかマスターしたのである。それでこの佐々木さんのフランシス語のような難解な秋田弁を相手に出来たのでした。

命の恩人は秋田弁④

..... 秋田弁解説

ウタテ	(嫌だ・なげかわしい・情けない)
エジコ	(イタコと同じ口寄せの巫女)
ヘチャムクシ	(おせっかいやき・おしゃべり)
アネツコカブリ	(本心をかくし、誰にでも好かれるような言語動作する人)
ホンジナシ	(分別の無い者・ばか)
メクスレタマクラ	(役立たず・ろくでもない)
ジャバクサレ	(おてんば女の端くれ)
ダジャク	(乱暴・無法・横着)
メラシ	(若い女・少女)
メグセ	(醜い・見苦しい)
シタ	(嫌だ・ヤダ)

か表現出来ない快挙であります。中山先生はその名著の中で方言については次のように述べられています。方言はお互いが生れたちとともに身につけた言葉で人の胸に深く食い入っている。人はこの方言で周囲の人々と心のつながりを深め、その背後にある社会と歴史を表現する貴重な文化遺産といえる。その方言が急速に姿を消しつつある現在、その貴重な文化遺産の語源研究を急がなければならなかった。この方言辞典が郷土秋田の方言に関心を持つ人々のお役にたてれば幸いです。

(次ページへ)

(前ページから)

えず、九死に一生の策を用いて奇襲を行うより他は無いと自ら兵を率いて赴かんとした。衆皆この策に賛したが、ただそれを行う者は他にありとて、ついに石原藤助、黒谷市郎の二将死を決してその実行に当たる事となった」と書いている。石原藤助以下十人ばかりの先発奇襲隊は、暗夜潜行し花館の官軍宿営を襲った。不意を打たれた官軍は大混乱した。その模様を「戊辰出羽戦記」は次の様に書いている。薩摩軍不意に討入られ前後相顧るを能はず散乱し退く此時島津新八郎は独り本陣に在り味方勝利なりと酒を飲み居たる処にて兵卒は尽く戦場に出でて本陣空虚なる所に敵兵に低込れば雑兵周章して弾薬器機をも打捨てて迷惑うを新八郎之を制して深く酒氣を帯ながらよろめく足を踏み

固め太刀を抜き放ち戦い、しかし多勢に取り囲まれ生け捕られたり。斬る火急の事なればこの紛擾言語に述べ難く莊兵は思いの儘に勝利を得て斬獲は次の如し。討取首十三体、生捕六人、弾薬入両掛、同莖包十七個、同箱入二個、パトロン式二万五百、雷管三万九千許元込銃、ミニヘル七挺、大小刀数腰、軍用金千五百両、その他雑物莊兵の討死せるもの三人、行方知れざる二人、手負い十人そのうち深手にて帰陣の上死するものありしと戦終りて莊兵大曲に引揚げ来れば暫く天命に近し。また「仙台戊辰史」「北羽発達史」等の記述も大体同じで、薩摩藩兵が決戦を控えながら勝利間違いなしと、五六十人が酒宴を開き泥酔中を夜襲われた。隊長島津新八郎はよろめきながらも戦ったが、

遂に生け捕りにされた。宿営したのは花館の村はずれで、玉川に近い佐々木多右衛門家で、造り酒屋であった。「島津新八郎」は敵の本営大曲の大川寺に連行され、松平甚三郎に尋問されたがその模様は「秋田沿革史大成・上巻」色々述べているが紙面の関係上割愛させて載きます。「島津新八郎」の最後については「戊辰見聞私記」等、講談まがいの著書も多いが紙面の都合上割愛させて載きます。「島津新八郎」は名門の出で、文武両道に優れた人物の様である。「大曲郷土史」に「島津新八郎は『久徴』といい、島津氏十五代貴久の三弟(島津忠良三男)藤原尚久より十五代目、母は島津奎久典の三女にして戦死の時久徴は二十八歳。島津一族中唯一の戊辰戦没死者である。」あり、薩摩藩

主の一族であった。新八郎は薩摩の人であるが大曲の人は昔から敬慕している。(略)新八郎が泥酔の上、生け捕られたとの説に深い疑問を持っていた。「大曲町郷土史」も、人違いではないかと次の様に述べている。戊辰役を編するものが彼らが佐々木氏宅にて泥酔の余因はれとなすを記すは、時の人、土崎より神宮寺を経て花館に入りしのみなる彼の顔を知るべくも無く、日高曹兵衛の豪勇振りを見て、而して島津の行方不明と聞かや、忽ち彼らの泥酔の豪傑こそ島津であると直角し、佐々木氏宅の人々先づ欺く信じ、大曲の人々また之れを信じたのでは無いか。花館地区は歴史の研究が盛んな所で、花館の会」という研究会を結成し、会員も百名を越えている。会誌「ふるさと

の歴史」を発行している。会誌第九号に、新発見の『齋藤貞治戊辰戦争勤功書上控』の全文が紹介されている。齋藤貞治は花館村の素封家齋藤家九代目勘左衛門の弟である。戊辰の役には甥の忠興と共に、薩摩藩の探索方として書き上げるの書き上げの控が発見されたのである。原文は角間川合戦、花館合戦にわたる長文のものが、割愛します。これを見る限り「新八郎」は泥酔していた所を、襲われたのでは無く、頭痛の為に休んでいた処を襲撃された事になる。これ迄の多くの戊辰戦争関係の著書は、莊内、仙台側の資料を元に、「新八郎」の戦死について泥酔説をとっていた。この勤功書が事実であれば故人の名譽の為に書き直さなければならぬであろう。

新八郎は大川寺から連行され、丸子橋を渡って村外れの畑で処刑された。亡骸は村人により丁寧に葬られ、後に大曲の素封家田口惣左衛門が「墓碑」を建立し弔め、毎年供養をし英魂を慰めた。後に正五位を追贈された。現在墓碑は大仙市大曲丸の内町の八幡神社境内に移されている。『後記』 今回(無名舎出版)の全面的な資料を採用させて頂きました。六十五年位前何も分からず、新八郎の墓碑で、夏休みのラジオ体操の会場や遊びに何も分からずに、利用していました。文章も古文に近く、出来るだけ忠実に記しました。もっと知りたい方は(無名舎)から取り寄せて見てくださいます。色々面白い読物が沢山ありますよ。(仙北会 佐々木育雄)

見たり

聞いたり

◆全国ファンとカラオケ 札幌のススキノでスナック「葉月」を経営する荒谷幸子さんのCD「人生花ざかり」と「船方母恋節」いずれも長坂純一作詞・作曲の二曲が、通信カラオケの大手「第一興商」にこのほど配信された。

◆恩返し読み聞かせ 北海道放送(札幌市)のアナウンサー鎌田強さんが郷

里湯上市の飯田川小で四月二十六日絵本の読み聞かせを行い、子どもから喜ばれた。読み聞かせは、かねてふるさとに恩返ししたいと願っていた鎌田さんの意向を汲んだ友人が企画した。一昨年七月、母校大豊小で実現したのが始まりで、今

回が二度目だった。読み聞かせの絵本は「これほのみのびこ」(谷川俊太郎)と「花咲き山」(斎藤隆介)。子どもたちに人気のある作品で、札幌から一緒のバイオリニストの音楽で物語朗読がスタート。子どもたちはたちまち感動の世界に浸っていた。

◆県人会でオペラ披露 佐々木広報委員長の次女で、二期会会員の前田奈央さんが十一月、北海道教育会館で、自身が主役をつとめるオペラ「不思議な国のアリス」を演じる。奈央さんは三、四歳の頃からピアノを習い、オペ

ラに関心を持ち、やり始めたのは高校時代。ウイーン短期留学、するなど修業を積んだ。オペラによるボランティア活動も行い、昨年十一月には、父の住む札幌での県人会総会でできたえたノドを披露している。

編集後記

今回の編集方針は先輩方が県人会活動のなかで広報誌の重要性を大事な活動方針として、事業委員会と広報委員会の両輪に重きを置いて活動された事を思い起し総務委員会に出席させて頂きました所、各都市会より多数の、寄稿が寄せられました。本心に帰って、先輩の教えを引継ぎ、頑張って行きま

す。広報委員が会長に本音でインタビューをしてみました。今後も広報誌は秋田の香りを紙面一杯載せて、新規会員加入に少しでも力に成りたいと思っております。故郷のこぼれ話、自慢話色々な話題等ありましたら次号に掲載致します。広報委員に渡して下さい。 広報委員会のメンバー

- 委員長 佐々木 育雄(仙北)
- 副委員長 柏加屋 實平(鹿)
- 副委員長 工藤 明博(山本)
- 委員 伊庭 仁(由利)
- 委員 三浦 潔(北秋)
- 委員 湯瀬 司(鹿角)
- 委員 佐藤 祐三郎(南秋)
- 委員 加賀 雄喜(秋田)
- 委員 阿倍 道宏(雄勝)
- サポーター
- ◎北川 保雄(山本)
- ◎秋元 敏見(秋田)
- ◎保坂 史郎(秋田)